

第6学年1組 社会科学習指導案

平成28年11月22日（火）

第5校時 場所 教室

在籍児童数 男子13人 女子18人 計31人

指導者 山口 航

1 小単元名 第6学年（1）ケ 長く続いた戦争と人々の暮らし

2 小単元について

（1）教材観

本小単元は、小学校学習指導要領社会科〔第6学年〕の2内容（1）のケ「日華事変、我が国にかかわる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピックの開催などについて調べ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かること。」を受けて設定したものである。

（2）児童観

ア 学校生活に関する実態

本学級の児童は、小学校入学時から単学級で、ほぼ同じメンバーで過ごしている。明朗快活で男女関係なく仲良くすることができる児童が多く、体育では男女手を繋いで活動することがあったり、放課後も男女混合のグループで待ち合わせをしておにごっこをして遊んだり、望ましい人間関係作りができていていると思われる。

発表に関するアンケートでは、

友だちの意見を参考にすることは大切だと思いますか。	そう思う 31名（100%）	そう思わない 0名（0%）
友だちの意見を聞いて自分の考えが深まったことがありますか。	あ る 26名（83%）	な い 5名（16%）
友だちに自分の意見を伝えることは大切だと思いますか。	そう思う 28名（90%）	そう思わない 3名（10%）

と、全ての児童が「友だちの意見を参考にすることは大切である。」と考えているとともに、実際に自分の意見を深めるきっかけとなった経験を持つ。また、「自分の意見を伝えることは大切である」と感じている児童も多くいるなど話し合いをする意義や必要性について理解している。その一方で、

授業中によく手を挙げて発表していますか。	そう思う 19名（61%）	そう思わない 12名（39%）
----------------------	---------------	-----------------

と、よく手を挙げて発表する児童は学級の60%と少ない。ペアやグループで話し合わせると活発に意見交換を行うが、挙手をして発表を行うとなると「恥ずかしい」や「緊張する」、「当たっているか心配だ」と思い、発表を渋る児童がいて、特定の児童だけに発表が固定化する傾向にある。そのため、ペア学習やグループ学習を行い、発表の機会を増やしたり、ジグソー学習法で授業を展開し、個々の意見をもとに学級全体の考えが深まることを経験させ、意見を言うことや聞くことの大切さを感じられるようにしたり取り組んできた。

イ 人権感覚に関する実態

人権感覚に関する事前アンケートを行ったところ、以下の結果となった。「知識的側面、価値的・態度的側面、技能的側面」の三側面については「技能的側面」が身につけている割合が高く、「知識的側面」が低

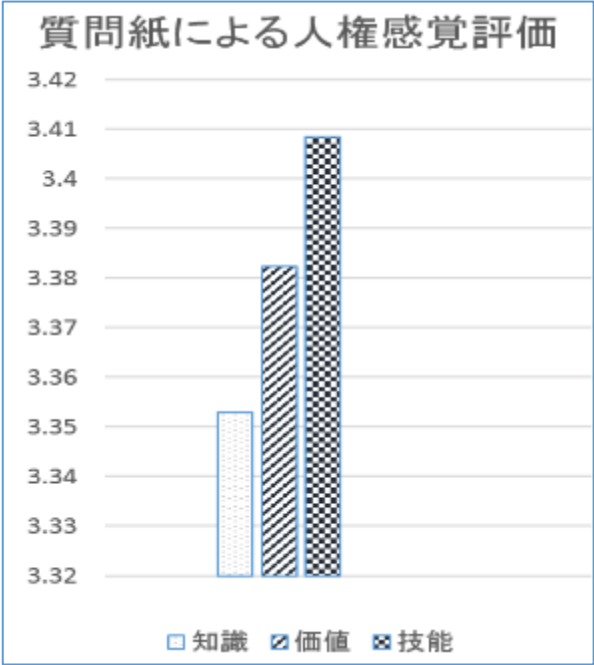
い（グラフ 1）。つまり、他者の気持ちを共感的に理解したり、互いの相違を認めたりする技能が身につけているが、その技能はどうして大切なのかという知的理解ができておらず、今までの経験で実践的行動力を養っている児童が多いと思われる。また、「人権感覚育成のための視点」については、「人間の尊厳・価値の尊重」と「生命尊重」、「多様性の尊重・共生」が高く、「自己尊重の感情」と「公平・公正」が低い（表 1・グラフ 2）。



グラフ 1

人間の尊厳・価値の尊重	3.6
生命尊重	3.6
自己尊重の感情	3
共感と連帯感	3.3
公平・公正	3
多様性の尊重・共生	3.6
コミュニケーション能力	3.3
権利と責任	3.5
参加・参画	3.5

表 1



グラフ 2

ウ 社会科に関する実態

社会科に関するアンケートでは、

社会科の授業は好きですか。	そう思う 28名（90％）	そう思わない 3名（10％）
社会科の授業は難しいですか。	そう思う 20名（65％）	そう思わない 11名（35％）

と社会科の学習は難しいと感じている児童が多くいる一方で、社会科の学習は楽しいと答える児童が多くいる。好きな理由として、「実際に昔起きた出来事を知ることは楽しい。」や「もし自分だったらと考えるのがおもしろい。」等であり、難しい理由として「人の名前を覚えるのが大変。」や「言葉が多くてこんがらがってしまう。」等であった。

また、「織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の中で一番優秀なリーダーは誰か。」という授業では、信長の鉄砲隊の作戦や秀吉のしたたかさ、家康の生い立ちなどを引き合いに出して理由を明確に話し合うことができるなど、自分の意見を伝える力がついてきている。

本時で取り上げる第二次世界大戦に関しては、

「第二次世界大戦」という言葉を聞いたことがありますか。	あ る 30名（97％）	な い 1名（3％）
第二次世界大戦について祖父や祖母などから当時の話を聞いたことがありますか。	あ る 5名（16％）	な い 26名（84％）

と、「第二次世界大戦」という言葉は知っているものの、知識としては乏しく、当時の話を聞く機会も少ないという実態である。

(3) 指導観

本小単元では、日華事変から第二次世界大戦について、資料を正確に読み取り、当時の人々の思いを想像しながら、自分の言葉で書いたり発表したりすることで、二度と戦争の惨禍を起こさないという強い決意や、自由を愛し、平和を希求する心をもつようにすることをねらいとしている。

第二次世界大戦が終戦し、今年で71年が経つ。上記に挙げたように、児童は書籍やテレビ等で過去に日本が戦争を行っていたことを理解しているものの、その詳しい内容については知らず、実感を伴っていない。これは核家族化や戦争体験者の高齢化などで第二次世界大戦を経験した人との触れ合いが持ちにくくなっているからだと考えられる。そこで、本校の学区内にある児玉工業団地が戦時中は児玉飛行場であり、当時の本校児童が児玉飛行場建設の際に、石拾いや滑走路の石並べにかりだされたことなどを知ること、戦争を身近なものとして感じさせたい。

3 学校研究主題との関連

(1) 研究主題

「自他の違いやよさに気付き、人とのかかわりを大切にする共和っ子の育成」 ～認め合い、伝え合い、学び合う指導法の工夫を通して～

(2) 人権教育研究を通してのめざす児童像

- ・違いやよさを認め合える子
- ・思いや考えを伝え合える子
- ・課題解決に向けて学び合える子

(3) 主題設定の理由

本校の児童は、全体的に明るく素直である。規範意識も高く穏やかな児童が多い。しかし、単学級で少人数であるため、活力に乏しかったり、人間関係が硬直化したりする面が見られる。授業中でも、自分の意思を伝えることを苦手とする児童は、対人関係の面で未熟であったり、未発達が関係していたりするケースが多い。

そこで、本研究主題に沿った教育活動を推進していけば、互いのよさや可能性を認め合える集団を通して自己有用感や他者意識の育成が図られ、児童が進んで発表したり、他者とのかかわりを大切にしたりできるなど、本校教育目標の具現化にもつながると考える。

(4) 研究の仮説

仮説1 ふれあいや共感の場を多く設ければ、自他を大切にする心情が育つであろう。

〈仮説に対する手立て〉

- ・グループ学習を行うことで、協力することのよさに気づくようにする。
- ・自分と友だちの意見を比較することで、他者の意見を聞くことのよさが理解できるようにする。

仮説3 児童一人一人にとって分かりやすい学習環境を工夫すれば、安心して学び合えるようになるであろう。

〈仮説に対する手立て〉

- ・黒板やその周辺の掲示物を精選し、児童が授業に集中できるように環境を整える。
- ・児童の実態に即した学習課題を設定し、意欲的に学習に取り組めるようにする。

4 人権教育上のねらい

(普遍的な課題「生命尊重」)

- ・自分たちの住む地域が空しゅうにあったり特攻隊員が練習していたりしたことを知り、生命の尊さを感じる。

5 人権教育上の視点

- (1) 共に調べ学習をしたり、調べたことを発表し合ったりすることでコミュニケーションの能力を高める。
(技能)
- (2) 生命の尊さを知り、大切にしようとする態度を養う。(態度)

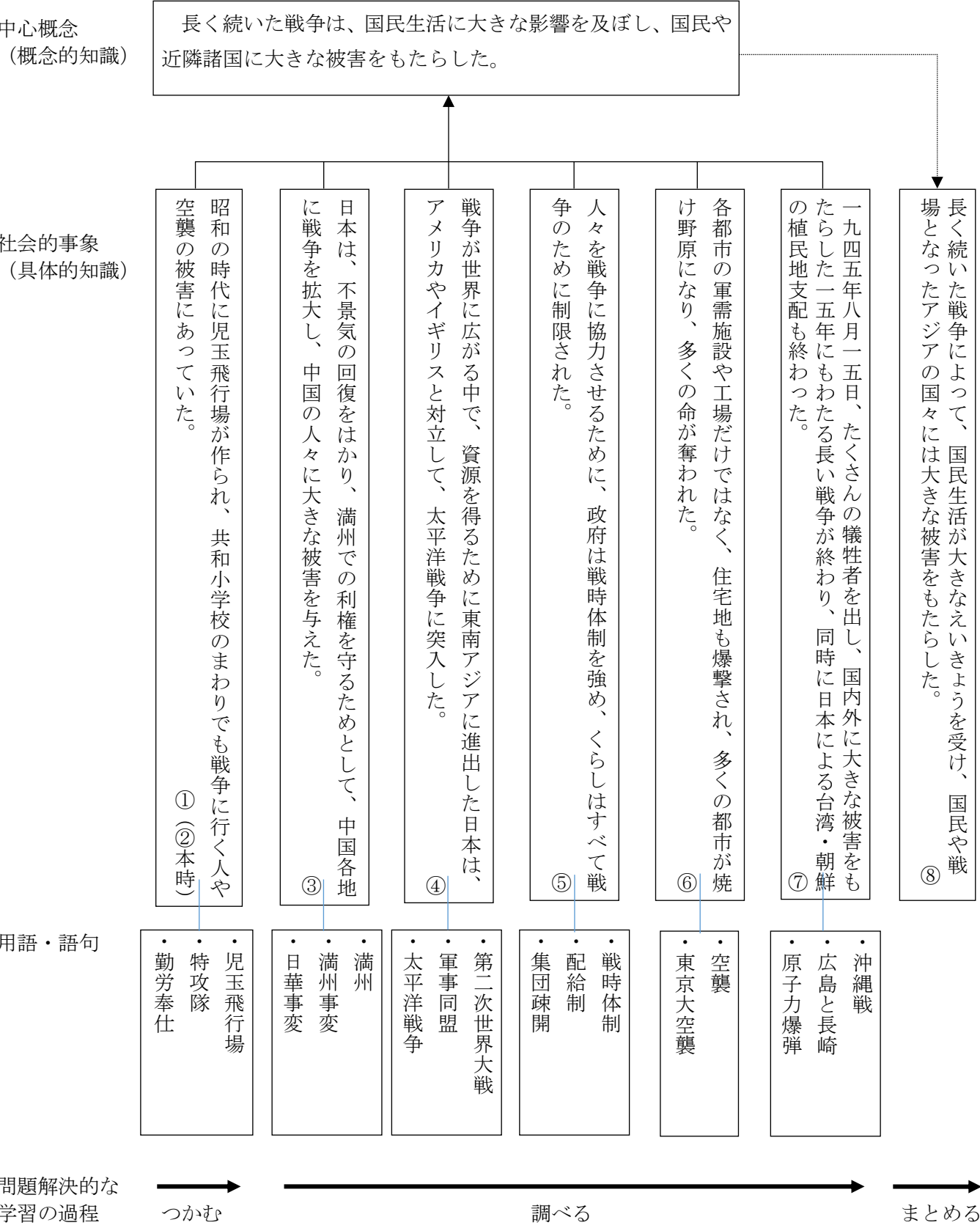
6 小単元の目標と評価規準

(1) 目標

- 日華事変や第二次世界大戦時のころの国民生活とそれらにかかわる代表的な文化遺産を通して、強化された戦時体制や敗戦によって国民が大きな被害を受けたこと、戦場になった地域に大きな損害を与えたことを理解するようにし、戦争の惨禍を二度と繰り返さないという心情を育てる。
- 写真や地図、年表、グラフなどの資料を効果的に活用して、戦争の広がりや戦時中の国民生活などについて調べ、調べたことを自分の言葉でまとめ、表現することを通して、戦争の実態と平和の尊さについて考える力を育てるようにする。

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
①日華事変、太平洋戦争、そのころの国民生活とそれらにかかわる代表的な文化遺産に関心をもち、進んで調べようとしている。 ②自分の住む地域が戦時中どのような様子だったのか考えようとしている。	①日華事変、太平洋戦争、そのころの国民生活とそれらにかかわる代表的な文化遺産について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 ②日華事変、太平洋戦争、そのころの国民生活とそれらにかかわる文化遺産について調べたことを比較したり、関連づけたり総合したりして、強化された戦時体制や敗戦によって国民生活が大きな影響を受けたこと、戦場になった地域に大きな被害を与えたことや、それらにかかわる代表的な文化遺産の意味を考え、適切に表現している。	①文化財、地図や年表、戦争を体験した人の話、その他の資料を活用して、日華事変、太平洋戦争、そのころの国民生活とそれらにかかわる代表的な文化遺産について、必要な情報を集めて読み取っている。 ②調べたことを整理し、わかりやすくまとめている。	①戦時体制の強化や敗戦によって国民が大きな被害を受けたこと、戦場になった地域に大きな損害を与えたことがわかっている。

7 知識の構造図 長く続いた戦争と人々の暮らし



8 指導計画と評価計画（9時間）

	本時のめあて	○おもな学習活動・内容	◆指導上の留意点	☆評価計画
学習問題をつかむ	①②戦時中の児玉町の様子 戦時中の児玉町の写真や文献などの資料をもとに話し合い、学習問題をつくりましょう。 (2時間)	○戦時中の児玉町の様子について調べる。 ・空しゅうにあい、死者や負傷者が出た。 ・児玉飛行場が建設され、日本陸軍の訓練場となった。 ・東京から子どもが疎開してきたり、勤労奉仕として児童が飛行場建設に関わったりした。 共和小の児童は勤労奉仕をして児玉飛行場の建設に関わった。 戦時中、児玉町も空襲にあったり、陸軍が訓練をおこなったりしていた。①②	◆戦争体験者に聞いたアンケートや文献、地図などの資料を用いて調べさせる。	☆〈関意態（1時）〉 当時の児玉町の人々の生活に関心を持ち、当時の生活を進んで調べようとしている。 ☆〈技能（1時）〉 戦時中の児玉町の様子がわかる資料から、必要な情報を集め、情報を整理してまとめることができる。 ☆〈関意態（2時）〉 戦争中の国内の様子について関心を持ち、単元全体を見通した学習課題を設定している。
	学習問題 長く続いた戦争は、日本や外国に、どのようなえいきょうをあたえたのでしょうか。			
調べる	③中国との戦争が広がる p. 130～131 日本が中国で行った戦争は、どのような戦争だったのでしょうか。 (1時間)	○満州事変、日華事変を起こした理由や戦争の広がりについて調べる。 ・中国に勢力をのばして不景気を回復しようという考えが国民の間に広められたこと。 ・満州の利益を守らないと日本がほろびると主張する人々がいたこと。 ・満州から中国各地に戦争が拡大したこと。 不景気からの回復や満州での権利や利益を守るために満州事変を起こし、戦場を中国各地へと拡大させ、中国の人々に大きな被害を与えた。③	◆地図と年表をもとに、中国の戦場が拡大していった様子をとらえさせる。	☆〈技能〉 地図や年表、その他の資料を活用して、中国との戦争がどのような戦争だったのかについて、必要な情報を読み取っている。
	④戦争が世界に広がる p. 132～133 戦争は、どのようにして世界に広がったのでしょうか。 (1時間)	○そのころの世界の様子を調べる。 ・ドイツがまわりの国々を侵略し、イギリスやフランスなどと戦争になったこと。 ○日本の戦争の広がりを調べる。 ・石油などの資源を得るために、東南アジアに軍隊を進めたこと。 ・ドイツ、イタリアと軍事同盟を結び、アジアの地域を支配しようとしたこと。 ・アメリカやイギリスなどの国々と東南アジアや太平洋を戦場とした太平洋戦争になったこと。 ・国民は、政府の言葉や報道を信じて、戦争に協力させられたこと。 日本は、資源を得るためにアジア地域を支配しようとして軍隊を進め、イギリスやアメリカと激しく対立するようになった。多くの国民は、政府の言葉や報道を信じ、戦争に協力した。④	◆多数の朝鮮人や中国人が、厳しい労働をさせられ、徴兵された朝鮮の若者もいたことにふれる。 ◆戦場に向かう兵士や、それを見送る家族の気持ちを考えさせる。 ◆日本とアメリカの生産力の差のグラフから、日本が敗戦を重ねた理由を考えさせる。	☆〈技能〉 「戦場になったアジア、太平洋の地域」の地図やそのほかの資料を活用して、日本の戦争の広がりについて、必要な情報を読み取っている。

⑤生活すべてが戦争のために p. 134～135 戦争中、人々は、どのような生活をしていましたでしょうか。 (1 時間)	○戦争中の生活の様子について調べる。 ・ まちには戦争協力をよびかける看板があふれた。 ・ たくさんの標語がつくられた。 ・ 食料や衣類は配給制になった。 ・ 女子学生が工場で働くようになった。 ・ 小学生は地方へ集団疎開した。 ・ 学校でも軍事訓練が行われた。 ・ 子どもが読む雑誌も戦争を題材にしたものが多かった。 人々を戦争に協力させるために、政府は戦時体制を強めていき、くらしはすべて戦争のために制限された。⑤	◆図書館を利用し、戦争に関する本を読ませ、情報を収集させる。 ◆まちの様子、食事や衣類、学校生活、勤労働員などに分けて整理させる。	☆〈技能〉 戦争中の生活の様子について、聞き取りや資料を活用したりして調べたことを整理して、ノートや作品にまとめている。
⑥空しゅうで日本の都市が焼かれる p. 136～137 日本各地の都市は、空襲によって、どのような被害を受けたのでしょうか。 (1 時間)	○東京大空しゅうの想像図、空しゅうの写真、空しゅうを受けた都市の地図などを調べて、分かったことや考えたことを話し合う。 ・ 1944年になると、アメリカ軍が日本の都市を空しゅうするようになったこと。 ・ 軍事施設や工場だけでなく、住宅地も爆撃され、焼け野原になったこと。 ・ 東京大空しゅうの死傷者は12万人といわれていること。 ○東京大空しゅうを体験した元木さんの話から、空しゅうの被害について考え、話し合う。 ・ 焼夷弾でまちが火の海になったこと。 東京や大阪をはじめとする都市は、軍事施設や工場だけでなく住宅地も爆撃され、多くの人々の生命が奪われた。⑥	◆空しゅうの様子の写真やVTRを利用して、視覚的にも被害の大きさをとらえさせる。 ◆ゲストティーチャーには、学習のねらいを十分に伝え、時間や内容の配分を調整する。	☆〈知理〉 戦時体制が強化される一方、本土が空しゅうされるようになり、国民が大きな被害を受けたことが分かっている。
⑦原爆の投下と戦争の終わり p. 138～139 戦争はどのようにして終わったのでしょうか。 (1 時間)	○沖縄戦の写真や手記などをもとに調べて、分かったことを話し合う。 ・ 1945年、アメリカ軍が沖縄に上陸し、一般市民や今の中高生くらいの生徒までが動員されたこと。 ・ 当時の沖縄県民60万人のうち12万人以上の人が亡くなったといわれていること。 ○原爆投下や玉音放送を聞く人々の写真などを見て、分かったことや考えたことを話し合う。 ・ 日本軍は各地で敗北し、多くの都市が空しゅうされ、沖縄は占領されたこと。 ・ 1945年8月6日に広島、8月9日には長崎に原子爆弾が落とされ、一瞬にして何万人もの命が奪われたこと。 ・ 満州にソ連軍が攻め込んできたこと。 ・ 日本は8月15日に降伏し、15年にもわたる戦争が終わり、同時に日本による台湾と朝鮮の植民地支配が終わったこと。 1945年4月アメリカ軍が沖縄島に上陸し、激しい攻撃により12万人以上の県民がなくなった。また、8月6日に広島、9日に長崎に原子爆弾が落とされ、いっしゅんにして何万人もの命が奪われた。そして、8月15日、日本はついに降伏し、戦争は終わった。同時に日本による台湾や朝鮮の植民地支配も終わった。⑦	◆沖縄戦や原爆の様子を撮影した資料を見せ、戦争の様子を具体的にとらえさせる。	☆〈知理〉 戦争によって、国民が大きな被害を受けたことや、戦場になったアジアや太平洋地域に大きな損害を与えたことが分かっている。

まとめる	③まとめる p. 140 学習問題について調べてきたことを年表に整理し、最後に学習を通して考えたことをノートに書こう。 (1時間)	○学習問題について調べてきたことを年表に整理し、「一言コメント」を書き入れて完成させる。 ・「主なできごと」の内容を短くまとめて一言で表す。 ○学習を通して考えたことをノートに書く。 ・「ことば」を使って自分の考えをまとめる。 ・戦争を忘れず、平和をめざすための自分の考えをまとめる。 長く続いた戦争によって、国民生活が大きなえいきょうを受け、国民や戦場となったアジアの国々には大きな被害をもたらした。⑧	◆教科書の年表の記述を参考にさせながら、空欄のコメントを考えさせる。 ◆「ことば」を活用して表現させるようにする。	☆〈思判表〉 これまで調べたことを比較し、関連づけたり総合したりして、戦争がもたらす被害の大きさについて考え、自分の考えをまとめている。
-------------	--	---	---	--

9 前時の学習指導（1／8時）

- （1）目標 ・当時の児玉町の人々の生活に関心を持ち、当時の生活を進んで調べようとしている。
（社会的事象への関心・意欲・態度）
・戦時中の児玉町の様子ที่わかる資料から、必要な情報を集め、情報を整理してまとめること
ができる。
（観察・資料の活用の技能）
- （2）展開（「評価と指導の工夫」の評と→は、評価の場面、評価方法、指導を表す）

学習活動	学習内容	評価と指導の工夫 ◎人権教育上の配慮	資料・準備	時間
1 本時の学習問題を 知る。	○本時の見通し を持つこと	○自分たちの住む地域は約戦時中にどのような 様子だったのか問いかけ、想像させる。 ○児童が知っている昔の児玉について簡単に発 表させ、意欲付けを図る。	資料	3
戦時中の児玉町はどのような様子だったのでしょうか。				
2 本時のめあて を確認する。				2
めあて 戦時中の児玉町について資料を使って調べましょう。				
3 当時の児玉町 について調べる。 （エキスパート活 動）	○戦時中の児玉 町の様子 ○資料の整理	○「調べる」、「発表し合う」、「関係づける」とい う全2時間の学習の流れを知らせ、児童が行 うことを明確にして取り組めるようにする。 ○生活班の中で児童を「子ども」、「飛行場」、「空 しゅう」の3つのグループに分け、調べ学習を 行わせる。 ○各グループに該当する資料を綴じて渡すが、 写真は班ごとまとめて配り必要な資料を選ぶ 力を養う。 ○一人ずつ資料を使って当時の様子をまとめた 後に、同じものを調べたグループで集まり、知 識をさらに広げられるようにする。 【評】 資料を活用して戦時中の児玉町について進 んで調べようとしている。【関】 ◎友だちと役割分担をして効率よく資料をまと め、協力するよさが感じられるようにする。 ○発表を聞く人がどのようにすればわかりやす くなるのか問いかけ、資料を丸写しするの ではなく、要点をまとめ、情報を整理させる。 ○難しい語句があるため、資料に注釈を入れて おく。 ○個人が調べたことやわかったことを付箋に書 いて、まとめやすくさせる。	資料	35

7 本時の学習を ふり返る。	「子ども」(資料) ・東京から集団疎開した子どもたちが児玉町に来た。 ・児玉飛行場の建設のために、4年生以上の共和小児童が石拾いを行った。 ・当時の小学生は飛行場建設のために、勉強することができなかった。	
	「飛行場」(資料) ・現在の児玉工業団地が戦時中は児玉飛行場だった。 ・児玉飛行場の建設のために、朝鮮人や当時の小学生が勤労奉仕した。 ・児玉飛行場では特攻隊員などの陸軍が訓練を行った。	
	「空襲」(資料) ・7月10日、18日、8月14日に空襲にあった。 ・飛行機や武器をねらわれないように山に隠した。 ・今年の5月にアメリカ製の不発弾が発見された。	
	○学習の定着 ○次時の予告	評 必要な資料を集め、的確にまとめることができる。【技】 ○次時は発表し合い、知識を深める授業であることを伝え、意欲を持たせて意欲を持たせる。

5

10 本時の学習指導（2／8時）

- (1) 目標 ・戦争中の国内の様子について関心を持ち、小单元全体を見通した学習問題を設定している。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) 展開（「評価と指導の工夫」の評と→は、評価の場面、評価方法、指導を表す）

学習活動	学習内容	評価と指導の工夫 ◎人権教育上の配慮	資料・準備	時間
1 本時の学習問題を 確認する。	○本時の見通しを 持つこと	○前時のふり返りをしながら2時間を通した学 習問題の確認をする。		2
戦時中の児玉町はどのような様子だったのでしょうか。（2時間を通した問題）				2
2 本時のめあて を確認する。	めあて 調べたことを発表し合い、これから調べていき たいことを見つけよう。			
3 当時の児玉町 について発表し 合う。	○戦時中の児玉町 の様子 ○資料の整理	○児童が行うことを明確にして取り組めるよう に、「発表し合う（ジグソー活動）」、「考えを深 める（クロストーク）」という学習の流れであ ることを知らせる。 ○各生活班の中で調べたことを発表し合う。 ○地図や写真を用いてわかりやすい発表を行う ようにする。	地図 写真 アンケート	10

(ジグソー活動)	○発表を聞くこと ○発表をすること	◎自分と友だちの意見を比較することで、他者の意見を聞くことのよさが理解できるようにする。 ○発表し合ったことをもとに班の中で知識をまとめる。	発表資料 プリント	
4 学級全体で知識をまとめる。	○戦時中の児玉町の様子	○各グループの発表を踏まえ、児玉町も戦争の惨禍に巻き込まれていたことに気付かせる。 ○児童の調べたことを学級全体でまとめるとともに、具体物を提示して児童の見識を深める。 ・戦時中、児玉町も空襲にあたり、陸軍が訓練をおこなったりしていた。 ・共和小の児童は勤労奉仕をして児玉飛行場の建設に関わった。	滑走路断面 模型 戦争体験者の手紙 当時の写真	10
5 これからの学習で調べたいことについて話し合う。 (1)班ごとに話し合う。		○戦争による児玉町の人々の生活の変化から、日本全国の戦争による変化に興味を持たせる。 ○第二次世界大戦中の日本の様子や世界との関わりについて現在持っている知識や疑問に思うこと、これから調べたいことを話し合う。 評 これから調べたいことについて自分の意見をまとめ、小単元全体を見通した学習問題を設定している。	プリント	10
(2)学級全体で話し合う。		(例) ・どこの国と戦ったのだろう。 ・どのくらいの被害がでたのだろう。 ・どういう人が戦争で戦ったのだろう。 ・人々はどのような生活をしていたのだろう。 ・戦争に反対する人はいなかったのかな。		
6 本時の学習のまとめをする。	○本時のまとめ ○小単元全体の学習問題	○班ごとに話し合った内容について学級全体でまとめることで、小単元全体を通した学習問題を立てる。 ○これからの学習の見通しを明確に持たせることで、意欲付けを図る。 ◎児童の実態に即した学習課題を設定し、意欲的に学習に取り組めるようにする。		5
学習問題 第二次世界大戦は日本や外国に、どのようなえいきょうをあたえたのか調べていきましょう。				
7 本時の学習を振り返る。	○学習の定着	○友達の発表を聞いて知ったことについて振り返らせる。		6

10 板書計画

11/22 80年ほど前の児玉町はどのような様子だったのでしょうか。

めあて
調べたことを発表し合い、これから調べていきたいことを見つけよう。

ジグソー活動
昔の児玉町の様子について知る

クロストーク
疑問に思うことや、これから調べたいこと

飛行場
現在の児玉工業団地が飛行場だった。
特別攻撃隊が練習をした。
小学生が石を運ぶなど手伝った。(勤労奉仕)

子ども
東京から石が運ばれてきた。
飛行場をつくるために石を運んだ。

空しい
児玉町も空しいをうけた。
→不発弾
→片だけ壊れたところ

疑問に思うこと・調べたいこと
・勝ったのか負けたのか
・どの国と戦ったのか
・どのような生活をしていたのか

まとめ (見通し)
第二次世界大戦は日本や他国にどのような影響を与えたのか調べていきましょう。

ふり返り
発表をきいて知ったこと

11 参考文献

- ・『児玉飛行場の記録』 児玉郡市教育振興運営委員会
- ・『児玉町史 (近現代資料編)』 児玉町教育委員会・児玉町史編さん委員会

社会科学習ワークシート 名前（ ）

①第二次世界大戦中の児玉町はどのような様子だったのでしょうか。

児玉町の**子ども**について

--

②友達の発表を聞いて

飛行場について

--

空しゅうについて

--

調べ学習や発表を通して疑問に思ったことやこれから調べてみたいこと

①社会科学習ワークシート 名前（ ）

第二次世界大戦中の児玉町はどのような様子だったのでしょうか。

児玉町の**飛行場**について

建設について（どういう人がどこに、どのようにつくったのか）

建設後の様子（どのように使われたのか）

②友達の発表を聞いて

子どもについて

空しゅうについて

調べ学習や発表を通して疑問に思ったことやこれから調べてみたいこと

- ①社会科学習ワークシート 名前（ ）
第二次世界大戦中の児玉町はどのような様子だったのでしょうか。

児玉町の**空しゅう**について

空しゅうにあった日	その時の様子

とうろうについて

--

- ②友達の発表を聞いて
子どもについて

--

飛行場について

--

調べ学習や発表を通して疑問に思ったことやこれから調べてみたいこと